

平成24年度 私立学校専門研修会・次世代リーダー育成部会 実施報告書

***** 研究のねらい *****

「私立学校の次世代リーダー像」

少子化や経済不況の影響などにより、学校経営環境が著しく変化する中、学校が未来永劫的に存続・発展していくことは社会的な使命でもあり、そのためには、学校経営者には「変化を読み取り柔軟に対応する能力」、「的確な決断を下すための知識」が求められる。そのような中であつては、将来的に学校経営の舵取りを任されることになる経営後継者に求められる役割と責任は大きい。

本部会では、自校の建学の精神、歴史を深く理解した上で、これからの時代を見据え、自校と経営後継者自身の理想の将来像を描き出すための考え方や視点を学び、その実現に向けて教職員と連携し自律的に行動するために必要となる様々な知識やスキルを習得する。また、現職の学校経営者が理想や現実を語り、その経験から得られた教訓などを次世代に伝えるとともに、関係者のネットワークづくりや情報交換の場とする。

本年度は、躍進目覚ましい地方私学の実情視察や現職経営者等からのメッセージなどを通して、私立学校に求められるこれからのリーダー像に迫る。

- ◆ 会 期 ◆ 平成24年11月2日（金）
- ◆ 会 場 ◆ ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡県福岡市博多区博多駅中央街5-3（JR博多駅筑紫口前）
電話 092-472-1111
- ◆ 参加人員 ◆ 42名（募集人員50名）
- ◆ 参加対象 ◆ A 次世代リーダー（次世代の理事長・校長等を志す者）
B ニューリーダー（新任の理事長・校長等）
C 次世代リーダーを育成する現職リーダー（現職の理事長・校長等）

◆ プログラム ◆

- ①講演Ⅰ 演題「私立学校の次世代リーダーに望むこと」
講師 近藤彰郎 八雲学園中学高等学校 理事長・校長

近藤彰郎氏プロフィール

1947年東京都生まれ。慶應義塾大学法学部卒業後、1969年日本アビトロニクス株式会社入社。1978年八雲学園高校教諭に就任。同校事務長、副校長を経て、1995年同校校長・学校法人八雲学園理事長に就任（翌年中学校長に就任）。現在、一般財団法人東京私立中学高等学校協会会長、東京都私立学校審議会会長、日本私立中学高等学校連合会副会長、全国私立学校審議会連合会会長、一般財団法人日本私学教育研究所理事などの外、財団法人全国高等学校体育連盟空手道部部長、公益財団法人全日本空手道連盟常任理事などの要職を務める。2005年東京都功労者表彰（教育功労）、2008年私立中学校高等学校教育振興功労者表彰、2010年藍綬褒章受章。

- ②パワーランチ（交流会）

③学校視察 学校法人東福岡学園 東福岡高等学校・東福岡自彊館中学校

〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵 2-24-1

電話 092-411-3702 (高校) / 092-434-3330 (中学校)

〔 文武両道を標榜し、先進的な取組で成果を上げている学校。大学現役合格率 94%を誇る進学教育、全国の舞台上で活躍する運動部、最新の教育環境（先進の施設設備、ヤフードーム 1.7 倍の全面人工芝グラウンドなど）を視察する。 〕

・挨拶 徳野光博 学校法人東福岡学園 理事長

・説明 松原 功 東福岡高等学校 校長

・授業視察

・施設視察

・講演Ⅱ 演題「チームづくりは人づくり」

講師 谷崎重幸 東福岡高等学校 ラグビー部 統括

谷崎重幸氏プロフィール

1958年三重県生まれ。志摩高校2年時国体準優勝、3年時花園出場。法政大学4年時関東大学リーグ優勝、ベストフIFティーンFBに選出される。1983年東福岡高等学校の社会科教諭としてラグビー部監督に就任。1984年全国高校ラグビー大会初出場。2001～2003年のニュージーランドへのコーチ留学が指導の契機となり、選手たちの自主性を重んじる指導法に転換。監督在任30年の中で全国（花園）大会22回出場（優勝4回、準優勝3回、3位2回。2007年初優勝。2009年より現在3連覇中）。全国選抜大会10回出場（優勝3回、準優勝2回、3位1回。2009年初優勝。震災をはさみ現在3連覇中）。なお、チームが中心となるALL福岡も国体4連覇中。2012年監督を勇退、「統括」として総監督的立場で指導に当たり高校ラグビー界を牽引する。

④教育懇談会 私学関係者のネットワークづくりに資するため、会場を移して懇談会を開催する。

〔会場：博多魚宴 福岡市博多区博多駅前1-3-22 かき善ビル2階 TEL092-483-4885〕

◆ 日程概要 ◆

時刻	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
	30	00	30	00	45	00		25	00	00
11月2日 (金)		受付	開 会 式	講演Ⅰ	パワ ー ラン チ (交流会)	移 動	学校視察 (説明・視察・講演Ⅱ)	閉 会 式 ・ 移 動	教育懇談会 【希望者】	

◆ 講師・指導員（順不同） ◆

松原 功 東福岡高等学校 校長

谷崎重幸 東福岡高等学校 ラグビー部 統括

新田光之助 筑陽学園中学高等学校 理事長・高校長

吉田 晋 富士見丘中学高等学校 理事長・校長

中川 武夫 淑徳SC 中等部高等部 顧問

◆ 専門委員・指導員（順不同） ◆

木内 秀樹 東京成徳大学中学高等学校 校長

近藤 彰郎 八雲学園中学高等学校 理事長・校長

山中 幸平 学校法人山中学園（如水館中学高等学校） 理事長

徳野光博 学校法人東福岡学園（東福岡自彊館中学校・東福岡高等学校） 理事長

鈴木 秀一 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・事務局長

◆ 事務担当 ◆

川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所 主幹

◆ 日 程 表 ◆

会場：ホテルクリオコート博多 4 階「バロック BCD」（開会式～パワーランチ）

10:30 11:00	受付・資料配付
	◇ 開会式 司会 鈴木秀一（理事・事務局長） 1. 開会 2. 主催者挨拶及び講話 理事長 吉田 晋 3. 開催地代表者挨拶及び講話 福岡県私学協会 会長 新田光之助 4. 日程説明 5. 閉会
11:30	◇ 講演 I 司会及び講師紹介 山中幸平（次世代リーダー育成専門委員） 演題 「私立学校の次世代リーダーに望むこと」 講師 八雲学園中学高等学校 理事長・校長 近藤彰郎
13:00 13:05	会場移動
	◇ パワーランチ（交流会）（会場：4 階「バロック A」）
13:45 14:00	移動（貸切バス）
	◇ 学校視察（東福岡高等学校・東福岡自彊館中学校） 司会 学校法人東福岡学園 理事長 徳野光博 挨拶 学校法人東福岡学園 理事長 徳野光博 説明 東福岡高等学校 校長 松原 功 授業視察 施設視察
	休憩
	講演 II 演題「チームづくりは人づくり」 講師 東福岡高等学校 ラグビー部 統括 谷崎重幸 謝辞 視察団団長 副理事長 山中幸平 司会 鈴木秀一
16:25	◇ 閉会式 司会 鈴木秀一 1. 開会 2. 総括 次世代リーダー育成専門委員長 木内秀樹 3. 閉会
16:30 17:00	移動（貸切バス）
	◇ 教育懇談会（会場：博多魚宴【希望者】） 司会 鈴木秀一 1. 開会挨拶 所長 中川武夫 2. 乾杯 次世代リーダー育成専門委員 徳野光博 3. 懇談 4. 閉会挨拶 次世代リーダー育成専門委員長 木内秀樹
19:00	

◆ 概要 ◆

新しい一般研修会の目玉として位置付けている本部会は、私立学校の将来を担う次世代リーダー（経営後継者）が、自校の建学の精神、歴史を深く理解した上で、これからの時代を見据え、自校と自身の理想の将来像を描き出すための考え方や視点を学び、その実現に向けて教職員と連携・協調しながら自律的に行動するために必要となる様々な知識やスキルを習得することを目的に設置された。現職のリーダーが理想や現実を語り、その経験から得られた教訓などを次世代に伝えるとともに、私学関係者のネットワークづくりや情報交換の場として、「私学の次世代リーダーは私学全体で育成する」との高邁な精神の下に実施している。

本年度は、11月2日（金）、福岡・ホテルクリオコート博多及び学校法人東福岡学園・東福岡高等学校において、募集人員50名に対し参加人員42名で実施した。参加者の内訳は、次世代リーダー21名、ニューリーダー5名、次世代リーダーを育成する現職リーダー16名で、次世代リーダーが半数を占めた。

研究のテーマは、「私立学校の次世代リーダー像」とし、全国私学のリーダーである当研究所の吉田晋理事長（富士見丘中学高等学校理事長・校長）並びに地方私学のリーダーである地元福岡県私学協会の新田光之助会長（筑陽学園中学高等学校理事長・高校長）は挨拶及び講話の中で、次世代リーダーへの期待と積極的な関係者間のネットワークづくりや私学全体の底上げの必要性を力説した。

また、全国の私学を牽引する東京私学のリーダーである近藤彰郎氏（八雲学園中学高等学校理事長・校長）は、「私立学校の次世代リーダーに望むこと」と題し、私学団体のリーダーとしての経験を踏まえ、理事会・行政・教職員・保護者対応などについて、それぞれ事例を基にリーダーとして取るべき行動などを力強く語った。

昼食を兼ねて行った情報交換会（パワーランチ）は、短時間ではあったが、参加者同士のネットワークづくりに資する絶好の機会となった。

続いて、躍進する地方私学の実情を把握するため、文武両道かつ先進的な取組で成果を上げている学校法人東福岡学園・東福岡高等学校に会場を移し、同学園・理事長の徳野光博氏より学校の沿革、建学の精神等について、更に、同校・校長の松原功氏より学校の教育方針・内容についての説明を受けるとともに、大学現役合格率94%を誇る進学教育、全国の舞台上で活躍する運動部、最新の教育環境（先進の施設設備、ヤフードーム1.7倍の全面人工芝グラウンドなど）を視察した。

また、同校・教諭でラグビー部統括（前監督）の谷崎重幸氏は、「チームづくりは人づくり」と題した講演の中で、30年にわたる監督生活で同部を日本一に導くことができたのはトップダウンの指導から生徒の自主性を重んじる指導へと転換したことにより、人材育成においては指導者の意識改革が重要だとした。「リーダーの意識が変わればフォロワーは変わる」という示唆に富んだ内容であった。

最後に、希望者を対象に、積極的なネットワークづくりに資するため、会場を移動して教育懇談会を行い、参加者同士更に懇親が深まり、有意義な機会になった。

◆ 開会式 ◆



【左：吉田晋理事長の主催者挨拶及び講話。右：新田光之助氏（福岡県私学協会会長）の挨拶及び講話】

●吉田晋理事長「主催者挨拶及び講話」

次世代リーダーやニューリーダーには、共通の問題意識を持ってもらいたい。高校無償化政策などにより、現在、私学には逆風が吹いている。私学は一校一校に独自性があり考え方に違いがあるものの、一つにまとまることも必要。私学全体が良くならなければ一校一校も良くならない。中教審などで審議され決められる各種教育施策は、全て公立学校を中心としたものだ。高校無償化政策などはその典型的な例だ。私学は黙ってはいけい。次世代リーダーには私学が抱える問題を全体で共有し、私学全体で動くことによって個々の私学の繁栄があることを認識して欲しい。次世代リーダー、ニューリーダー、現職リーダーがここに集まったのも何かの縁。私学の財産は人だ。その「人財」を使い、新たな「人財」を育成して欲しい。

●新田光之助氏（福岡県私学協会会長）「挨拶及び講話」

今、私学の自由な教育が行えるのは、中央で吉田理事長や東京の近藤会長がリーダーシップを発揮して文部科学省等との折衝に当たり、私学への様々な逆風に対応しているからだということを知って欲しい。次世代リーダー望むことは、一点目は創立者の想いや建学の精神を愛するということだ。そういう教職員が集まれば教育もしやすく、保護者も学校の方針が理解しやすい。これが私学の良さだ。二点目は私学団体の公職に積極的に就くべきことだ。これにより、教育を取り巻く様々な状況が客観的に分かる。人脈も広がり、外から自分の学校を見ることが出来る。そして、それらを自校に持ち帰り教職員に伝えることができる。外の仕事の成果は自校に還ってくる。次世代リーダーには是非そうあって欲しい。

中央では吉田理事長、地方では新田会長のような私学団体のリーダーは、私学の自主性、独自性を堅持するために様々な場面で奮闘している。次世代リーダーは私学が一丸となって難局に立ち向かうことの必要性、また、その意義などを認識した。

○参加者の声

- 私学人として基本的な認識、心構えについて思いを新たにすることができた。【次世代リーダー】
- 私学の独自性、建学の精神、また、私学自体の必要性を再認識することができた。【次世代リーダー・現職リーダー】
- 「私学が一丸となって難局に当たりたい」という明確なメッセージが伝わってきて大変感銘を受けた。【次世代リーダー】
- 私学への逆風に立ち向かうためにも、私学全体で同じ問題意識を持たなければならないことを痛感した。【次世代リーダー】
- いつもながら「私学」という一つの大きな組織の中で生かされていること、広い視野で常に周りを見てい

なければならぬことを教えてもらった。【ニューリーダー】

- 現状を無視した教育制度改革の問題点を指摘してもらい大変良かった。【ニューリーダー】
- 私学の抱える課題について、どのように対応すべきか、良い示唆をもらった。【現職リーダー】
- 私学の置かれている現状を行政との関係から鋭く指摘してもらえた。【現職リーダー・次世代リーダー】
- 吉田理事長の話は大変参考になった。新田会長の話からは心構えを教わった。【次世代リーダー】
- 日本の現状を知ることができたし、勇気をもらうことができた。吉田理事長の言葉は何度聞いても心に響く。【次世代リーダー】
- 今回の研修会について、色々と想いを持って企画されたことを感じた。【次世代リーダー】
- 「自分の学校のために、すなわち私学全体のために」に共感する。【次世代リーダー】
- 国に対する姿勢、意気込みを感じた。【次世代リーダー】
- 建学の精神、創立者の想い、私学の独自性を尊重するという意識を改めて感じた。【現職リーダー】
- 吉田理事長の話が非常に新鮮だった。我々には行政との関わりを持つ機会がないが、その世界の話が聞けたのは良かった。【次世代リーダー】
- 研修を通じて人と知り合い、「人財」を大切に作る姿勢を持つことがリーダーには必要であると痛感した。【ニューリーダー】
- 「私学教員のレベルアップのためには全体を考えると、結果として自分に戻ってくる」という新田会長の言葉はとても印象的だった。創立者の想い、建学者の精神を今一度考え、これからの学校経営に活かしていきたいと思った。【次世代リーダー】

◆ 講演 ◆



【近藤彰郎氏（八雲学園中学高等学校理事長・校長）の講演】

●近藤彰郎氏（八雲学園中学高等学校理事長・校長）「講演：私立学校の次世代リーダーに望むこと」

これまでの経験を語ることで、何かの役に立てればという想いだ。現実に対処していく中で矛盾を感じていることを話したい。「発達段階」というものが学校にもある。自校の「発達段階」で何をすべきかを考える。他校のまねをしても意味がない。自校が今どういう段階か判断すべきだ。

○理事会対応

学校法人の意思決定機関である理事会対応は重要だ。評議員会は承認機関。建学の精神があって、それを受けて理事になる。理事構成が最も重要。企業と違い資金がなくても実権を握ることができる。理事構成を間違えると大変なことになる。著名人を理事にして失敗した例や親族同士の内紛などを見てきた。全く違った学校になってしまう。経営者としてのディフェンスが必要だ。理事長は理事会と学校現場と

の橋渡しが重要な役割で、現場の状況を知ることが重要。しかし、イエスマンの情報に従ってはならない。また、建学の精神を受け継ぐことが求められる。世の中の流れは速く、社会的要請に応えながら時代に支持される伝統を育てることが必要。更に、学校の「発達段階」に応じて常に改革を心掛け進化していくことが大切。他校のまねをしても無意味。単なる独裁者は要らない。以上のことを実現させる人が理事長に就くべき。企業とは違った使命感が必要で、愛校心がなければ学校は成り立たない。

私学は自由でなければならない。ただし、無秩序ではいけない。黙っていても自由は勝ち取れない。戦う時もある。歴史的に見れば、明治時代に宗教教育を排除しようという動きがあった。キリスト教の学校では、戦時中に強制的にマリア像に代わり日の丸を掲げさせることもあった。官尊民卑の風潮はまだ続いており、少子化時代を迎え「私学は公立の補完校なので潰せばいい」という発言もある。僅か5年前の出来事だが、地教行法改正の際、教育委員会の所管の中に私学を入れようとする動きがあった。我々はあらゆる手段を駆使してこれに反対し、改正法に付帯決議を付けさせ形骸化させた。油断してはならない。抵抗するときは抵抗すべきだ。

○行政対応

雛形に従うだけではいけない。行政判断に依存するのではなく、法律判断により自主的に判断すべき。また、順法精神だけでは私学は守れない。絶対に守らなくてはならない法律、申し合わせはあるが、言われた通りにしていればいい訳ではない。文言のみで判断される。本来の目的を理解しておく必要がある。例えば、寄附行為の改正、学校週5日制、都立中高一貫教育校の選抜日などでも、黙っていたらそのまま行政のいいように決定していた。未履修問題もそうだ。一部の関係者の独断で決められた。「私立学校法第5条（学校教育法の特例）」の学校教育法第14条（設備、授業等の変更命令）の適用除外条項が重要だ。私学の自主性を守る根源だ。死守しなければならない。大学はこれを放棄してしまった。行政担当者は数年で替わるので、その都度言うことが変わる。時には学校を守るために戦う姿勢が必要。言うべきことは遠慮せずに言うことが必要だ。物事一人の人の考え方で決定することが多い。常日頃から多くの人間関係を大切に、良き理解者を得ておく必要がある。全ての面でイコールフットリングが前提でなければ競争原理は働かない。都道府県知事、文部科学大臣が誰になるかは私学にとって大きな問題だ。政権政党によっても影響を受ける。私学を理解する人を知事や大臣にしたい。

○教職員対応

仕事は厳しく、教職員は同じ目的を持った同志だ。同じ方向を向いていなければならない。教職員の理解を得るためには、会議以外の場での場面を多くすることが必要。常日頃から伝えていく必要がある。対外的なイメージとして、教職員の立ち振る舞い等の態度は重要だ。

○保護者対応

保護者が望むことは、人間として豊かに成長して欲しい、安全で楽しい学校生活をさせて欲しい、子ども夢を実現させて欲しいということだ。教職員全員が学校の方針を良く理解した上で保護者や支援者に説明できることが必要。学校の危機は、現状に満足し停滞した時だ。危機意識を持つのではなく、改革の意識を持ち進化し続けることが大事だ。

我々は生きる時代を選べない。与えられた時代を懸命に賢明に生きることが大事。生き残る戦いでは寂しすぎる。生き残る戦いでは弱すぎる。日本の教育を守るため、日本の将来を支える若者たちのため、何も恐れることなく、私学の独自性を守り発展させていくことが私学の次世代リーダーに求められる。

近藤会長のリーダーシップにより、東京の私学は一丸となって発展している。それにより、個々の私学は独自の教育に邁進することができる。時として、行政等には歯に衣着せぬ物言いで臨む。私学の自主性、独自性、更には、私学の存在そのものを大いにアピールしている。「黙っていても私学を守れない。時には戦うことも必要」という現実では、カリスマ性のある近藤会長のリーダーシップに期待する向きは大きい。

○参加者の声

- 私学経営に関わる諸課題とその対応について具体的に触れられ、大変参考になった。私学教育のあり方についても示唆に富んだ講演であった。【次世代リーダー】

- 大変勉強になった。現在の私学を取り巻く様子や私学が束となって何を注視していくかなど、新しい視点を身に付けることができた。【次世代リーダー】
- 理事の役割について大変明確な話を聞いて参考になった。いくつもキーワードがあり、大事にしていきたい。今後、私学全体にも貢献できるよう意識していく。【次世代リーダー】
- 私学は内にも外にも、また、建学の精神を守るためにも、自由と和を求め戦っていくことが必要と痛感した。【現職リーダー】
- 私学経営者が知っておかなければならないことを大変分かりやすく話してもらい、ここ数年の教育界の流れは特に勉強になった。私学として共通認識に立ち、共存し合う大切さを学んだ。【ニューリーダー・次世代リーダー】
- 理事会のあり方についての話は大変参考になった。一私学人として、私学に対する無理解や逆風と戦っていかなければならないと感じた。【ニューリーダー】
- 学校法人の理事長としての心構えを考えるには、大変有意義な内容だった。【現職リーダー】
- 日々戦っていかなければならない私学の運命と、だからこそ気概を持って生徒、学校のために尽力する私学人の誇りを近藤先生の話から痛切に感じた。【次世代リーダー】
- 私学を維持し育てるといふ大仕事を実感でき、やる気が湧く話だった。【現職リーダー】
- 様々な角度から私学のあり方、私学人としてどうあるべきかを教えてもらった。【次世代リーダー】
- 近藤先生の話は分かりやすく、何といっても楽しい。聞いていてワクワクする。昨年もこの研修会に参加したが、今年も本当に楽しく聞くことができた。感動したし、衝撃を受けた。今後も引き続き話を聞きたい。【次世代リーダー】
- 経営者としての内側、外側における着眼点について理解することができ、有益だった。【次世代リーダー】
- 学校の「発達段階」の認識が自分自身薄い感じがした。【現職リーダー】
- 私学の独自性や学校の基本的な考えを改めて認識でき、勉強になりとても感動した。【現職リーダー】
- 豊富な事例により、大変興味深く聞くことができた。それぞれの独自性は保ちつつも「私学はひとつ」、結束の大切さを痛感した。外（政治等）の動向にも目を向けることが大事だと思った。【次世代リーダー】
- 中央で起こった多くの事例を聞き、今まで直面していなかったが、今後は認識を改めて学校運営に当たりたい。【現職リーダー】
- 次世代のリーダーとして知っておかなければならない話で、以前から何となく聞いていた話もあったが、新しい話も聞いて良かった。とにかく、危機感を持ち攻めの姿勢で頑張る。【次世代リーダー】
- 近藤先生の素晴らしい講演内容に感動した。特に、教育をトータルで考えていく姿勢を学んだ。「労を厭わず仕事をするのが学校を良くすること」というのが一番心に残った。【ニューリーダー】
- 自校の「発達段階」を見極めていくことが大事だと痛感した。教育理念を持ち使命感に基づいて心に響く教育ができるよう努力していきたい。【次世代リーダー】
- 私学を経営することの基本姿勢を具体例の中から学ぶことができた。一般企業と学校法人の違いも感じられ、私学は私学としてまとまっていく必要性も再確認できた。【次世代リーダー】

◆ パワーランチ ◆



【パワーランチ】

他のプログラムの影響を受け、やや時間不足の感があったが、参加者同士の交流の良い機会となった。これまで立食形式や向かい合わせ形式など試行錯誤を重ねた結果、今回は円卓形式としたが、概ね好評だった。

○参加者の声

- もう少し時間があり、立食などにより多くの参加者と話ができると良かった。【次世代リーダー】
- 自然な形で名刺交換ができ、非常に良い雰囲気の中での昼食会となった。【次世代リーダー・現職リーダー】
- 東福岡高等学校の学校紹介の DVD に圧倒された。【次世代リーダー】
- 時間がなかったのが残念だった。【次世代リーダー・現職リーダー】
- あまり話はできなかったが、同じテーブルの参加者と名刺交換することができ良かった。【次世代リーダー】
- 少し慌ただしかったが、学校紹介の DVD も鑑賞でき良かった。【現職リーダー】
- 名刺交換と雑談に終わってしまった。【ニューリーダー】
- 他県の私学の状況を聞くことができ、充実した昼食会となった。【次世代リーダー】
- 学校紹介の DVD はとても良かったが、やや慌ただしい感じがした。【次世代リーダー】
- 初対面の人と名刺交換ができ、このネットワークを今後も繋げていきたい。【次世代リーダー】
- 色々な人と出会うことができ、交流もできたので良かった。【次世代リーダー】
- 円卓形式で話しやすく、テーブル内での意見交換会ができて良かった。【次世代リーダー・ニューリーダー】

◆ 学校視察 ◆



【学校視察（学校法人東福岡学園・東福岡高等学校）。上：左は挨拶する徳野光博氏（学校法人東福岡学園理事長）、右は説明する松原功氏（東福岡高等学校校長）。いずれも視聴覚教室にて。
下：施設の視察。左：情報メディアセンター、右：ヤフードーム1.7倍の全面人工芝グラウンド】

●徳野光博氏（学校法人東福岡学園理事長）「挨拶」

当校は昭和20年に開校した福岡米語義塾を母体とした創立67年の学校である。戦後からの激動する社会の中で、学園は一貫して時代に要請に応えるべく人づくりに邁進してきた。学園の歴史の中で校地の移転が大きな転機となり、現在の校地に落ち着くまでには様々な困難があったことから、「教育環境の整備」には特に力を傾注した。これらの基になったのは建学の精神である。創立者の言葉「努力に勝る天才なし」、「意志あるところに道あり」が現在も教職員を始め生徒たちにも受け継がれている。「親の心を心とした教育」をモットーに、教務五原則として①教科研究の推進、②正課授業の充実、③課外授業の体系化、④適正な進路指導、⑤授業管理の徹底を教職員に課している。生徒には①服装の端正、②出席の厳正、③校内美化の徹底、④交通法規の遵守、⑤公共心の育成と挨拶の励行を課し、基本的な生活習慣を身に付ける指導を行っている。私学の秀峰を目指し、全校を挙げて人格完成への理想教育に邁進しつつ、高等普通教育の完璧を期するとともに、特に、進学に重点を置き、躰の教育に当たっている。

●松原功氏（東福岡高等学校校長）「説明」

文武両道の男子の進学校で、専願入試で合格し入学した生徒は全入学者全体の3分の1を占め、専願率は年々上昇している。2年前に新校舎が完成し、環境にも配慮したエコスクールである。全面人工芝グラウンドを有することからスポーツ強豪校とのイメージが強いが、大学進学実績も上がっている。九州大学に4年連続で20名以上の現役合格者を出しており、保護者のニーズにも応えている。部活動に加入しているのは半数以下の生徒である。福岡県はもちろん、九州内でも僅かになった男子校であるが、今後もこの旗を降ろすつもりはない。指定校推薦枠を使いながら現役合格を目指す男子の進学校を目指している。高校入学時から卒業時までの学力の伸長には自信がある。習熟度に応じた3つのコースを設置し、いずれも大学現役合格を目指している。特に、難関コースでは九州大学への合格を目指している。全体では94%が現役で合格している。学校教育に関する生徒や保護者に対するアンケートでも満足度が高くなっている。その他、各種データからも生徒の活動は充実していることが分かる。これに満足せず、良質の教育サービスの提供を追求していく。

創立者の教育にかける想いや建学の精神を全ての教職員や生徒が理解し、次世代に脈々と受け継がれている学校である。文武両道を標榜するだけあり、大学進学実績や全国的に活躍する部活動の成果には目を見張るものがある。先進の施設・設備や広大な人工芝グラウンドにはただ驚くばかりだが、視察で出会った生徒たちが皆、立ち止まって我々来訪者に率先して挨拶してくれたことが印象的だった。建学の精神に基づいた教育の成果がここに現れている。

○参加者の声

- 大変立派な施設設備だと感じた。随所に工夫が感じられ、参考になった。説明も学校づくりへの熱意が感じられ、こちらが励まされるものだった。【次世代リーダー・現職リーダー】
- 最新の設備にただ感心するのみだった。視察中、教員の方々の情熱、生き生きとした生徒たちの生活態度に感動した。日頃の指導もしっかりしていると感じた。【次世代リーダー・ニューリーダー・現職リーダー】
- ラグビー、サッカーの3面人工芝フルサイズのグラウンドや、随所に木を取り入れた教室等の学習環境等、ハード面での素晴らしさに増して、各教室で行われていた熱の入った指導が印象的だった。【次世代リーダー】
- 自校とはあまりに異なる環境に驚くばかりだった。生徒の学習環境を大事に考えている姿勢が表れていて参考になった。【次世代リーダー】
- 人工芝グラウンドは自校でも実現したいので参考になった。文武両道を保っているのは素晴らしいと感じた。本校も直面している課題だ。【現職リーダー】
- 自校でも取り入れたいと思う参考点がいくつもあり、早速、検討してみたい。細部にわたり関係者が工夫を重ねており、そのような教育に対する姿勢は自校の至らぬ点だと痛感した。【ニューリーダー】
- 素晴らしいキャンパスと校風により生徒たちは生き生きと育つと実感した。【現職リーダー】

- 素晴らしい施設で、地方の学校からは想定外のものだった。使いやすさ、教育的配慮など、参考になるものが多く、学校としてのコンセプトなどを学べた。【次世代リーダー】
- 生徒、保護者、教員、卒業生など、学園関係者全てに配慮された環境づくり、エコ・アクションの取組など、50年、100年先を見据えたハード面、ソフト面の充実に圧倒された。【次世代リーダー】
- 施設に圧倒された。2年生からの教室内の掲示物には、生徒の気持ちを高める工夫がされており、参考になった。明るい教室づくりにも感動した。【次世代リーダー】
- 創立者の努力が現在も脈々と受け継がれていることに感銘を受けた。エコをコンセプトとした施設設備は素晴らしいことだ。【次世代リーダー】
- 素晴らしい施設設備を見せてもらい、教育環境の充実の必要性を感じた。自校でできることが僅かでもあれば積極的に改善していきたいと感じた。【ニューリーダー・現職リーダー】
- 東福岡高校の素晴らしい施設と環境、更に、学校の教育方針と理念に感動した。文武両道の男子校の特色が、建学の精神を大切にしている点が素晴らしかった。【ニューリーダー】
- 施設設備が充実しており、完璧で羨ましい限りだ。東福岡高校を目標にして頑張りたい。教員の方々の応対も親切でとても気持ちのよい視察となった。【次世代リーダー】
- 広い敷地の中、生徒が伸び伸びと学校生活を送っている施設のつくり、配置に感心した。もう少し時間を取って視察したかった。【次世代リーダー】



【谷崎重幸氏（東福岡高等学校ラグビー部統括）の講演】

●谷崎重幸氏（東福岡高等学校ラグビー部統括）「講演：チームづくりは人づくり」

東福岡高校ラグビー部はこの3年間国内のチームに負けていない。ここまで勝てるようになったのは生徒が変わったのではなく、指導者の意識が変わったから。「俺についてこい、勝たせてやる」という意識の時はなかなか勝てなかった。「勝たなくていい、楽しんでこい」というようになってから勝てるようになった。

大学卒業後すぐに東福岡高校の指導者となった。学生時代の経験そのままにトップダウンの指導だった。生徒に指導者の理想を押しつけていた。指導3年目で花園に出場し、若手熱血監督としてメディアに取り上げられ有頂天になっていた。

最初の転機は2年連続で花園出場を逃したこと。3年連続で負けると3年生は一度も花園を経験せず卒業ということになるという危機感があった。しかも、福岡代表の指導もしなければならず、チームを離れることが多かった。チームと離れている間、選手とのコミュニケーションを取るため、選手と交換日記を始めた。口では厳しいことしか言えなかったが、文字では褒めることができた。そして、福岡で勝てるチームから九州で勝てるチームに躍進した。言葉の力を実感した。

次の転機は妻の死去。妻は38歳で癌になり翌年亡くなった。それまで家庭を顧みずラグビーだけをしてきた男が急に3人の子どもを育てることになった。とても仕事をしながらでは無理なので、先代の理事長・徳野常道先生の温情でラグビー指導の留学という名目で3年間休みを貰い、ニュージーランドで子育てを始めた。そこで、日本を外から見ることができた。それまでは「ティーチング（教える）」だった。ニュージーランドでは「コーチング（導く）」だった。18歳以下の子どもを指導する際には絶対に「Don't」と「No」という言葉を使うなど言われた。子どもが自分で考えて取った行動を否定すると次から自発的な行動を起こさなくなる。人それぞれ個性があるのだから「それは間違い」などと決めつけてはならない。このようなニュージーランドの指導を見て、自分のこれまでの指導を反省した。それからは褒めるところを探して皆の前で褒めるようにした。褒めるポイントもトライなどの個人技ではなく、献身的なプレーを褒めるようにした。

失敗を恐れないことが重要。失敗を恐れるから失敗する。失敗を恐れずに果敢にプレーするのが楽しむということ。ラグビーにはノーサイドの精神がある。試合後は敵味方関係なくラグビーファミリーであるという精神。「ラグビーをやっていた」と言うと、実力に関係なくすぐに友達になれる。海外の人とも通じ合える。競い合っても対立はない。ライバルはいても敵はいない。相手を認め合うことができる。生徒には、自分の意志で入ったラグビー部だからラグビーを心から楽しんで欲しい。楽しむとは全身全霊を掛けて打ち込むということ。ラグビーの試合だけでなく、練習や日常生活全てをしっかりとやるということが大切。ラグビーが卒業後の人生の糧となるような指導を心がけている。ラグビーではとにかく準備が大切。常に「段取り8割」と言っている。試合までの準備で結果の8割が決まるという意味。試合で鳴る笛も次への準備。ノックオンの笛はスクラムの準備。ボールがタッチを割ったらラインアウトの準備。ノーサイドの笛は次の試合への準備。

今は選手を心から信頼している。選手もラグビーを心から楽しんでいる。楽しんでいるからミスしても許せる。ミスしても許されるから次は倍返しだと選手は頑張る。私もまだまだ勉強中。教える「教育」ではなく、共に育つ「共育」だと思っている。

高校ラグビー界の名将、谷崎先生の話は非常に明快だ。生徒の潜在能力を引き出し自主性、自発性を認める。それを伸ばすことこそがコーチング＝教育だと考える。海外でラグビーの指導に携わることによって日本のラグビー、また、自分の指導方法を客観的に分析しそれを転換したことによって成功した。開会式の新田会長の話にもあった「外の仕事をすれば自分に還ってくる」と同じ論理だ。東福岡高校ラグビー部の試合はスケールが大きく選手が皆楽しんでプレーしているのが良く分かる。選手の自主性、自発性を重んじるということは、私立学校の原点と同じだ。私立学校の独自性、自主性が守られるからこそ良い教育が提供される。谷崎先生は私学の教員だからこそそうした考えを持たれたのではないだろうか。

○参加者の声

- 自身の経験に裏打ちされた貴重な話を聞いて良かった。人づくりについての本質が示されていたように思う。【次世代リーダー・ニューリーダー】
- 生徒の可能性を無限に伸ばすことの大切さを改めて感じた。【次世代リーダー】
- 教員が変われば生徒が変わるということを実感した方の深い言葉がありがたかった。【次世代リーダー】
- 選手育成から人の育て方、褒める指導、今の主流のコーチングの実践が良く理解できた。【現職リーダー】
- 様々な経験を持つ谷崎先生の言葉には大変重みがあり、運動部が盛んな自校教員にも指導の心得として聞かせたいと感じた。【ニューリーダー】
- スポーツ指導者として、人生の指導者として相応しい内容の講演だった。【現職リーダー】
- 時間のない中で示唆に富む話を聞くことができありがたかった。ラグビーの指導の中で谷崎先生が体得、到達された境地を自校の教員にも是非紹介したい。【次世代リーダー】
- 指導者が変わることで生徒が育つということを分かりやすい話で教えてもらった。【現職リーダー】
- 谷崎先生の言葉「自分が変わることに」、この一言に尽きると思った。【次世代リーダー】

- 指導者が変われば結果が変わる、教師が変われば生徒が変わる、経営者が変われば教師が変わる、自ら変わることの大切さを学んだ。【新任リーダー】
- 「言葉の力」、「指導者が変われば生徒が変わる」という自主的に芽生える力こそ真の力であることに共感した。【次世代リーダー】
- 素晴らしい講演だった。生徒の自主性を伸ばす指導、あらゆる場面に共通する原則であると感じた。【次世代リーダー・現職リーダー】
- ラグビーを通して人を育てる難しさ、素晴らしさを感じることができた。【次世代リーダー】
- 「ライバルはいても敵はいない」、私学はチームだと思った。【現職リーダー】
- 長年にわたり全国的なチームを率いてきて谷崎先生という言葉には非常に重みがある。生徒とどう関わればいいのか、どういう言葉が大切なのか、示唆に富む講演だった。【次世代リーダー】
- 部活（チームプレー）指導の難しさ、深さを感じた。谷崎先生自身の考え方の変遷、チームプレー（部活）をする意義、全国レベルまでいく部活指導者の生徒に対する指導の素晴らしさ、個性を活かし自分で判断できる選手を育てることが理解できた。【現職リーダー】
- 成功者の話でとても面白かった。チームというまとまりも学校というまとまりも規模は違うが同じ一つの集団だと思う。【次世代リーダー】
- 谷崎先生の素晴らしい人づくりの実践を教えてもらった。感謝とお陰様の心を持てる日本人の教育の観点は同感だ。自主性を身に付ける教育が私学教育の広がりになるよう、今後、その役割を果たしていきたい。【ニューリーダー】
- 我々は「理想像を押しつける」ということを案外やっけてしまっているように気がする。「共育」でなければならぬこと、精神面の大切さ、言葉の力、失敗の大切さなど、自分自身の普段の生活も見直ししていく必要性を感じた。【次世代リーダー】
- 様々な集団が何かのために協力し向かっていく中では、人間として認め合うことが必要で、大枠の制限の中で、個性を自由に出していけるものの考え方をしていければと感じた。【次世代リーダー】

◆ 総括 ◆



【左：山中幸平副理事長（専門委員）の謝辞。右：閉会式で研修会の総括及び挨拶をする木内秀樹専門委員長】

●木内秀樹次世代リーダー育成専門委員長「総括及び挨拶」

駆け足のスケジュールだったが、次世代リーダーは今後の学校経営に向けての何らかのヒントを掴んだのではないかと思う。視察した東福岡学園が建学の精神を非常に大切にしていることが教職員の対応や生徒の生活態度の中に、また、施設・設備のコンセプトなどからも感じられた。私学にとって大変重要なことだ。この研修会の目的の一つは関係者間のネットワークづくりにある。次年度以降もこの研修会は実施するので引き続き参加されたい。

短い時間での研修であったが、所期の目的は達成できたのではないかと。次年度の企画に当たっては、今年度の各プログラムに対する参加者の声（アンケート）なども参考にしながら検討したい。東京を中心とした首都圏の私学が目玉されがちだが、躍進目覚ましい地方私学も多い。そのような学校にスポットを当て全国で紹介するとともに、経営後継者である次世代リーダーが今後の学校経営に当たって何らかのヒントを得ることができ、更に、ネットワークづくりに資するようなプログラムを実施したい。

○参加者の声

- とても有意義な研修会だった。関係者の尽力に敬意を表したい。【次世代リーダー・ニューリーダー】
- 非常に勉強、刺激になった。【次世代リーダー】
- 本当に良い研修会だった。この研修会は継続して実施して欲しい。【次世代リーダー・現職リーダー】
- 過去も出席したが、次回も是非出席したい。活力になっている。【次世代リーダー】

◆ 教育懇談会 ◆



【多くの参加者を得て開催した教育懇談会。挨拶する主催関係者（現職リーダー）。
左から吉田晋理事長、中川武夫所長、近藤彰郎専門委員、徳野光博専門委員】

○参加者の声

- 私学にいて良かったと思える楽しい会だった。【ニューリーダー】
- 和気あいあいの素敵なひとときだった。全員自己紹介ができて良かった。【次世代リーダー・現職リーダー】
- 本当の意味での交流ができ有意義な時間だった。感謝したい。【次世代リーダー・ニューリーダー】
- 多くの方々と知り合うことができ、意見交換ができた。有意義な会だった。【次世代リーダー・現職リーダー】
- 最高に良かった。一つ大きな世界が開けた感じがする。【次世代リーダー】
- 素晴らしいリーダーたちと話ができ光栄だ。【現職リーダー】

◆ 都道府県別参加者数 ◆

都道府県名	人数（名）	都道府県名	人数（名）	都道府県名	人数（名）
北海道	2	愛知	2	山口	2
神奈川	2	大阪	1	福岡	8
千葉	1	兵庫	1	長崎	1
東京	4	奈良	2	大分	2
山梨	1	鳥取	1	宮崎	1
静岡	1	広島	8	鹿児島	2
				18 都道府県	計 42

※ 「参加者の声」 = アンケート回収率 61.9%（26 名分）